

弁当の隅に潜みし 掛詞 ひそ かけことば

つゆと知らねど 我に振りかく

令和四年七月二十一日

大中臣正比呂



あな嬉し、弁当の容器の中から「ふりかけ」が出てきた。
「おとな」のそれと書いてある。なかなか意味深である。
ベランダに露草が咲いた。夏も盛りだ。